

会 議 録

会議の名称	和泉市生活排水対策推進協議会【令和元年度（第1回）】
開催日時	令和元年年6月24日 14時00分～15時05分
開催場所	和泉市コミュニティセンター1階大集会室
出席者	委員 中原会長、宮本副会長、向井委員、安河内委員、前田委員、石井委員、小門委員（以上7名 順不同） 欠席：東委員 事務局 石川副市長、濱田理事、岸田次長 前田課長、関課長補佐、高木係長、米田主事（環境産業部環境保全課） 生活排水対策関係課（室）職員6名（道路河川室・土木維持管理室・下水道整備課・お客さまサービス課・農林課）
会議の議題	(1) 副会長の選出 (2) 河川水質の現状について (3) 平成30年度事業実績について (4) 令和元年度事業計画について (5) その他
会議の要旨	(1) 協議副会長の選出について 副会長には、和泉市町会連合会会長の宮本委員が互選により選任された。 (2) 河川水質の現状について 【事務局説明の概要】 「BODに係る環境基準達成状況」については、本年度は1調査地点において（天候等の条件誤差範囲内であるが）、基準値をクリア出来なかった。 (3) 平成30年度事業実績について 【事務局説明の概要】 事業計画に基づき、本市において平成30年度に実施した生活排水対策事業実績について報告 (4) 令和元年度事業計画について 【事務局説明の概要】 事業計画に基づき、本市において令和元年度に実施する生活排水対策事業計画について報告 (5) その他 なし
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
その他の必須事項	傍聴者は無

主な内容

【質疑応答】

(1) 河川水質の現状について

《委員》

○一部基準値のオーバーしたものに対する対策はありますか。

《事務局》

○今回の BOD のデータは、過去からあまり変動はなく以前から基準値上限あたりを推移しており、昨年は、越えてしまったという認識です。BOD は汚れている、いないの指標で、数値が高いと今日は汚れているなという感覚のもので、対策となると具体的に今すぐという対策はないが、例えば下水道の整備、生活排水への啓発といった細かいところでの積み重ねでひとつずつ良くなっていくという趣旨です。

(2) 平成 30 年度事業実績について

《会長》

○最初の①～⑤、下水道普及率や水洗化率の向上は、家庭生活が成熟状態でありこれが、大幅に改善するというのは、難しくなってきました。また、浄化槽の管理維持に関しては、補助制度が無くなります。

⑥以降は先程 BOD で汚染の度合いを数字で示されましたが、様々の啓蒙活動が徐々に、成果を上げてきていると私は信じておりますが、実際数字にどのように表れるかは難しいと思います。

(3) 令和元年度事業計画について

《委員》

○NO.16 水辺の観察会に関して市民に周知する方法は？

《事務局》

○広報いずみへ掲載するのと市のホームページに載せています。

《委員》

○水辺の観察会について、30 年度は台風で中止になっていますが、雨天中止等になった場合どのような対策をとられていますか。

《事務局》

○当日雨の場合や台風等で水位が、上昇した場合は中止にします。前日が雨で当日実施できそうな場合は様子を見て実施の方向で調整します。

《委員》

○延期はないのですか。

《事務局》

○今のところありません。

《委員》

○マイクロプラスチックが問題になってきていますが、社会全体の問題として協議会の方でも何かイメージされていることはありますか。

《会長》

○生活排水対策推進協議会ですので直接的にはありませんが、政府を中心に大阪府でもこのマイクロプラスチックの問題は注目をあびています。当市においても何らかの対策を各部署で考えておられるそうですので、その状況をうかがいましょう。

《生活環境課》

○マイクロプラスチックについては、水路・河川を通して不法投棄されたゴミが海洋に行き細分化されて、マイクロプラスチックになりそれが、微生物を介して魚に取り込まれ汚染が、広がっている状況です。  
町会等の地域清掃で集められたゴミや不法投棄されたゴミの中からプラスチックについては、市の職員で回収し海に出ないような取組みをしています。それと併せて 3R の実践、Reduce ゴミを出さない、レジ袋の削減とかプラスチックの代用品を使ってもらうなどの啓発活動を行っています。

《会長》

○おそらく議会の皆さんも意見交換されていて条例を、作るような動きになると思います。マイクロプラスチックとくにペットボトルが、問題でむやみやたらに捨てない。一方で再生利用できますので、回収の効率を上げるというゴミの減量が一般市民の立場では協力しやすい。町中にもペットボトルはあちこちに捨てられている。そういうものが自然界に溢れていて、そのままの状態では大したことはないが、海に出て粉々に壊れて魚が食べると最終的に人間の口に入ってくる。人間に対する影響ははっきりしませんが、海の生物には明らかに影響がでている。これからは一般社会の人が注目して個々の人が努力しなければいけない。

それを、自治体の方で旗振りしなければいけない。これから和泉市当局の出方を注視していきましょう。最近新聞でもマイクロプラスチックの話題が、取り上げられているようにたいへん大きな話題です。

マイクロというのは 0.1mm~0.2mm の粒子でもっと小さいナノスケールの粒子もあるわけで、マイクロプラスチックは空中に飛散し人間が吸い込む大きさではない、むしろ健康にはナノスケールプラスチックの方が問題である。

《委員》

○主婦としては、便利なスポンジも問題があるということで、どうしたものかと思っています。代替の物がでてくれればいいのですが。

《生活環境課》

○プラスチックに替わる代用品と言う形で、自然由来のものを使っていただくことも、防止する手段となります。今後の検討課題です。

《会長》

○余談ですが、この委員会は以前ペットボトルでお茶を提供しておりましたが、そういう話題が沸騰しておりまして、今回は紙コップで対応されております。

その他の項目で事務局の方から何かございますか。

《事務局》

○特にございません。

《会長》

○全体を通じてご意見等、ございませんか。

《委員》

○和泉市内のホタルの生息状況は、いかがでしょうか。ホタルが生息するということは、水が良いということですので。私は貝塚在住ですが、水間あたりにホタルを生息させようと活動されている方もいらっしゃいます。和泉市ではいかがでしょうか。

《委員》

○久保惣美術館でホタルの観察会を行っています。ホタル保存会があつてあの近辺で生息活動をしていると思います。

《事務局》

○環境保全課の方で、ホタルの生息状況調査を委託で実施しており、3年目になります。市内の側川あたりや南横山小学校辺りでの生息を確認しています。それ以外にヒメボタルという自然度の高い所に生息するホタルがいる場所もございます。場所を公開することは難しいですが、確認しており記録に残す作業をしています。

《委員》

○ペットボトルの回収について蓋を別にして回収していますが、つけたままの回収はできませんか。

《生活環境課》

○別々にしているのには理由があります。本体と蓋の部分とではリサイクル工場が異なりますので、分別していただくと手間が省けます。

《委員》

○本体と蓋が一緒にならないかと思ひまして。

《生活環境課》

○工場が別ですので分別していただくと、簡単に作業ができます。  
ペットボトル本体と蓋の部分は、プラスチックでシャンプー、リンスのボトルなどと一緒していただくと、簡単に作業できますので、ご協力いただきたい。

《委員》

○本体を別にして蓋は、シャンプー、リンスのボトルと同じにしても良いのですね。

《生活環境課》

○新分別でペットボトル本体は、私達の作業服等に再利用されています。  
蓋はプラスチックとして、別に再利用されています。

《委員》

○ペットボトルの蓋のねじの部分はいかがですか。

《生活環境課》

○ねじの部分は、工場で切断して別のリサイクルにまわしています。切断に関しては、危険な作業ですので、市民の方にはお願いしていません。

《会長》

○ペットボトルを、集めるルールが自治体によって異なりますので、周知徹底をお願いしたい。他にございませんか。  
それでは、これで本日の案件はすべて終了いたしました。  
進行のほうを、司会にお返しいたします。

《事務局》

○ありがとうございました。  
それでは、これをもちまして「令和元年度 和泉市生活排水対策推進協議会」を閉会いたします。

